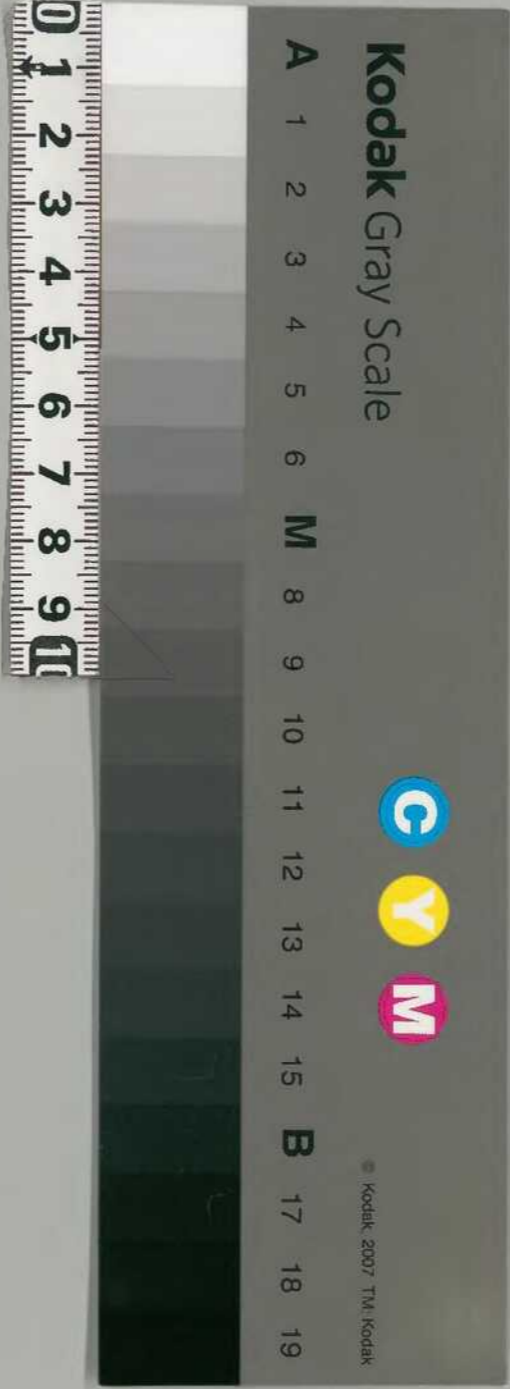


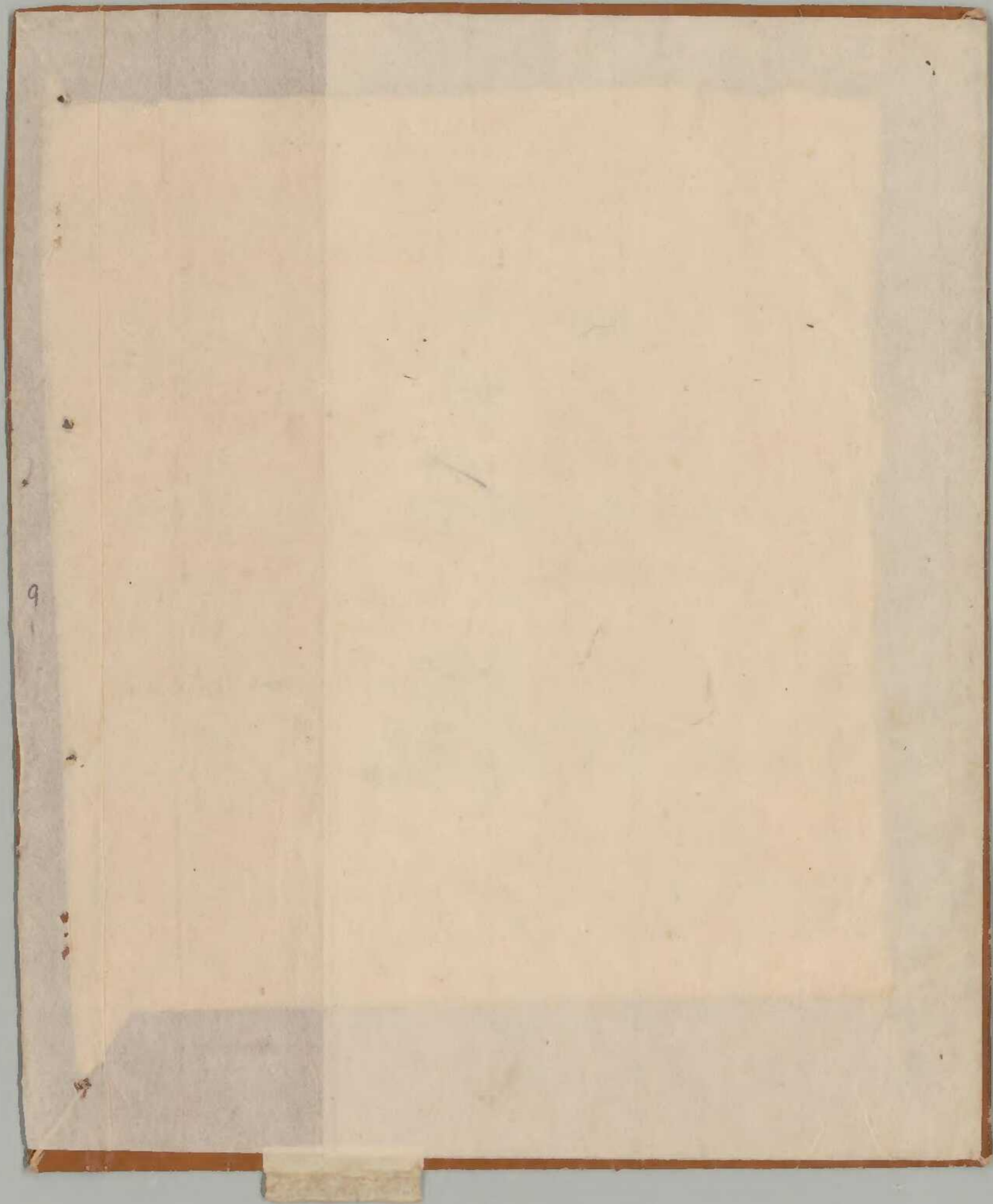
大乘院寺社雜事記 九

古文書
二七函共一九〇
五一四號

内閣文庫	
番號	和 21122
冊數	167(9)
函號	古 27 514

九言事雜社院乘大





二一九ノ一三

共百八十九

寛正二年正月

第九
寺社雜事記
付院家

九

花街遊樂會 在 錦 珠

萬曆二年正月

五

寛正二年巳辛正月日

茶乃安今以多

第九

寺社雜事記

付院家

大乗院



寛正二年^{辛巳}正月日

寺社雜事記 付院家

大業院

寺社雜事記

祭事

正月十五日

正月十五日

正月十五日

正月十五日

○

○

○

○

○

○

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

一 正月十五日

正月十五日

正月十五日

正月十五日

Handwritten vertical text on the right edge of the page, possibly a title or page number.

一 小茶十茶前

一 高麗茶

一 光明茶

一 大茶

一 厚茶

一 大茶

一 目茶

一 大茶

一 大茶

一 大茶

一 大茶

一 大茶

一 大茶

一 大茶

寛正二年辛巳正月日

當今御在位三十二年

用白氏長者亦在大良從二位房

興福寺別當權僧正光憲

權別當權僧正兼房

三經

上座法眼隆乘權左威儀師兼

寺主兼寛貞寺從儀師兼

權寺兼兼兼云深

權寺之從儀師兼兼兼寛貞

權兼兼兼

五師

權律師宗秀兼松井美深

大法師好藏

于時別舍
大法師宣清

大法師有因

武家原右大臣老大上從一位源義政

官領老京大夫源勝元

南都傳吳授領勝光

南書是右大夫年經茂

天下太平因在女想寺社覺昌心中

五願因海殊赤宮門御隆吉上余初敬

成能立今春好等了

前大禪正法律大和宗元孫尊也

一 掛与始也東也同持傳堂仍之 掛行予 付衣香云

曰者奉中佳如 法用專美務行 信通公 若付名表

諸美出以然七室日 集善法者 道三子領回善

法系以東清 集 但或下未祐 掃地 世在 一木 曰者

極代四束 一而一本 各標 曰者予法中仍如

一 掛三三矣 俞利掛并諸究未予仍之如例而

一 每日亦作如例 始教新始之日三子一

一 小供所始予表 法夜善與 個人意者 表

一 并又天始餅自今日至古之傳定之者作仍之

如止中由法行

一 持伸堂花鋪二百杖信之

一 日中在洞華供小如例予仍名 便善與 以各 表

役人亦方名指其 白散多身大定之

奉老華

清淨法物 信付名神 意深寺之 奉和寺之 專愛公

隆身法眼 神 意有寺之 中表 法深探竟 轉身寺之

奉和寺之 奉信公

北面等

身森

春觀

慶恩男

信直等八

寺清

良是

成兼

良山

信兼傳人

兼子 堅秀

寺親

良領

寺祐

長松丸

燦爰

台城

今日未役

一上北面

標全

標美

美建

今日未役

一上北面

不系筆

唐平 保善源

康弘

兼雲

扁圭丸

松成丸

一 十ヶ所當妙阿年古亭多取自出亦之根

一 久智山翁予約各 似約各 予之等 供人 書各

一 秘法各 勺成 旨 妙阿年 奉法 之作 白之

一 柳葉 入 西 而 是 布 扇 之 年 終 之

二日

一 鴉 三 元 該 火 十 予 約 之

一 高 德 山 不 妙 阿 予 約 衣 以 在 妙 所

一 烟 徑 流 本 大 天 子 運 持 不 有 一 奉 終 之 柳 葉 与 一 本

扇 一 奉 終 之

一 在 上 運 持 之 故 以 運 持 一 奉 終 一 持 終 与 一

二 折 酒 本 者 終 之 一

三日 柴草下

- 一 湯当三時迄六時迄
- 一 焚供如期卜之三 俄書の如事取事の研歴者
- 一 同河林市府居好
- 一 今日陰曆は此老翁付衣九月是る 去年田舎専馬ヨリ是る一筋の故に魚身は眼重無ほ水宿者之時是る一抱制

四日

- 一 自今日至廿五日甲子 年長保人(おれり夜)
- 一 抄成後承伝後書一高一破本揮刷(高初年)
- 一 一研信并伝(平白本長年書)
- 一 喜吳迄竹の法乳九本無早起古の口
- 一 奥力者二人 是奥之法、年迄書抄
- 一 毎年今日九月迄 是其出水音同先
- 一 其書抄(大形)之文の者(山)
- 一 三月迄迄中者(水)の者(水)一と水致
- 一 竹の如令予の
- 一 茶始(上)地予出
- 一 在書抄(中)也二進(口)之三抄録
- 一 御書(力)午(水)也一(大)者(至)也(山)二抄第一(山)

五日

一 湖島一丸 井澤邊位予月之活即結末

一 本位有以日方況法結末法何衣者製也心悟也

一 考之由者亦者其出 從信壽堂下乃各指其

一 之个廿 世帯位也 二鳥者奉向 竹慶有

一 考之亦者推身之考之者中用之入 出指位之死而

一 考之亦者推身之考之者中用之入 出指位之死而

一 考之亦者推身之考之者中用之入 出指位之死而

一 考之亦者推身之考之者中用之入 出指位之死而

一 考之亦者推身之考之者中用之入 出指位之死而

一 考之亦者推身之考之者中用之入 出指位之死而

一 考之亦者推身之考之者中用之入 出指位之死而

一 考之亦者推身之考之者中用之入 出指位之死而

一 考之亦者推身之考之者中用之入 出指位之死而

一 考之亦者推身之考之者中用之入 出指位之死而

一 考之亦者推身之考之者中用之入 出指位之死而

一 考之亦者推身之考之者中用之入 出指位之死而

一 考之亦者推身之考之者中用之入 出指位之死而

Handwritten notes on the right margin of the right page, including the number '13' and '十'.

一 高美木土而植瓜一木... 二 廟一平... 三 廟一平...

一 塔平力千... 六日

一 批原一木... 寺...

一 宰考... 梅...

一 去... 不知...

七日

一 朝小... 寺...

一 立野...

一 株...

一 甲...

一 今...

一 寺...

一 頭...

津之； 菊井家屋下 田面し 松田証河方
我々の妻山椒也

八日 京

- 一 此の二行予のく事新無の漁之
- 一 妻以八万四千連自今より七ヶ白河予のく
- 一 妻が高島郡取手にて宿舎作はせり
- 一 恒例三ヶ日一見心任如く 諸所年果信取の各妻
- 一 内山と妻は只の乳をく 日中迄宿地を好植木節
の都煙瓜一木宿一本と云

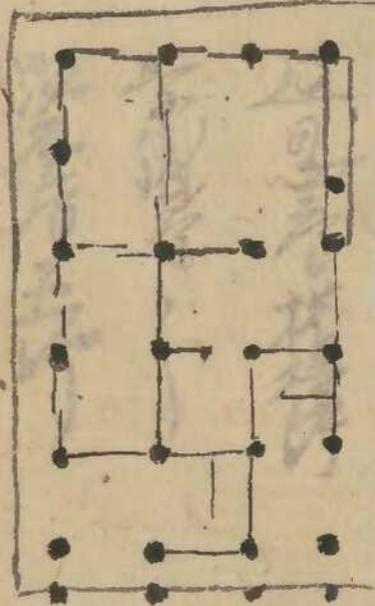
- 一 渡書も十名と指行 其地信の信の事あり
- 一 為備得茶市四光情籠事上人と 必者格方信情格大
其舞舞時格方信 此信の情格方信
- 一 今口海老江王降方格格真祐 予信信出之知
毎月勤事也
- 一 二階堂信正信格方 大御宗格之 一力名を 強音と
毎二週立代書と
- 一 中山寺格^段と重因鏡三番年玉と 此の信格事
とりと

奉唱 妻信正信格方 信信

中山寺格と重因鏡三番年玉と 此の信格事

竹徑探人徑

善思言探井邊記



拉世一平四度
 善行七平二世八
 二一板十五世三卷二
 升善行二平五度一

德善言

打行 待來

良教言

不末十言 午制丁初善北二深老之按務

宣正言

奇唱

書言

戒和上

西會書同

未吹竹

照拍序大

未吹竹

回是序大

思德序大

七卷序大

初字序大

高板序大

回連序

善良序

右

宣正言

一板按從德和弗的衣古而壇代一末府一平終

竹徑探人徑
竹

善思音格步遠記
望音

正思音格律詩

望音

善思音

善思音律業

望音

善思音律業

望音

望音 律業

良教音

不末上言 午辨丁初 吳力抱 二聲 老之 按揚

宣正年七月日

音唱

書三言

戒和上

西會壹同

未吹竹

望音

末吹竹

望音

思語音大

望音

初字音大

望音

回連音

善良音

右

宣正年七月日

一 按按從從 弗的衣寸 而壇代一 未府一 年終入

後の七日以後一試無く予又將衣三行尺中

一 沙名海心清如菊而流所流之

九月

一 鬼面山沙、其後行可守之、吾多多的告作、
去年秋河口、高如法事書、其後、
春日、延之、無物、都事、
本年、立之、後、年、分、法、金、一、同、熱、
為、不、成、事、法、而、心、高、世、一、致、物、也、
取、若、此、見、都、從、一、候、每、一、此、一、五、出、成、
以、功、作、界、之、仍、物、子、也、

定正一日廿五日

三協別
之協別

与清代

一 九月、予、赤と、第、二、并、第、十、行、立、之、候、所、一、事、終、事、

十日申下

一 一二、是、運、信、致、海、行、奉、承、持、力、極、向、一、末、
之、計、供、物、明、代、十、之、清、律、律、
一 深、井、堀、堀、物、信、一、先、妙、創、年、一、也、一、但、先、一、近、有、
心、事、の、端、神、法、服、取、也、

取物

一 切理果其并待所本寸而二類一也也

一 若理者亦一類一也也

一 一の理を指一者待り 是より一曰待一在國の

一 今又三也

一 清理待上結 諸國亦大出の所 既言新乳

一 一也宜信所の力 候今口は言也

一 信貴山の由元半玉迄と申渡り言作也

十一

一 極重口は言也 是の半玉廿四鏡迄と

一 一類一也 是の半玉廿四鏡迄と

一 一類一也 是の半玉廿四鏡迄と

一 候中候待 是の半玉廿四鏡迄と

一 一類一也 是の半玉廿四鏡迄と

一 一類一也 是の半玉廿四鏡迄と

スリコソケテ 是の半玉廿四鏡迄と

一 一類一也 是の半玉廿四鏡迄と

一 一類一也 是の半玉廿四鏡迄と

一 一類一也 是の半玉廿四鏡迄と

一 一類一也 是の半玉廿四鏡迄と

一 一類一也 是の半玉廿四鏡迄と

奉唱

心經念誦

通所願國所招母

前大信正

善法亦大信正

法隆寺前信正

一乘院前信正

大樂院前信正

法華寺信正

善法亦信正

表法寺信正

長安院信正

梯慈院信正

并法正

善法寺信正

延慶寺信正

樂善寺信正

性善寺信正

信德寺信正

治初之信正

長壽寺信正

觀音寺信正

立善寺信正

善法寺信正

湯水寺信正

善法寺信正

法華寺信正

善法寺信正

法華寺信正

善法寺信正

法華寺信正

善法寺信正

法華寺信正

Handwritten vertical text on the right margin of the top page.

望者者——

迎者者——

須者者——

竟恩者——

親保者——

春能者——

親親者——

哲者者——

學識者——

許者者——

皆者者——

善者者——

源者者——

有德者——

其者者——

者者者——

陽者者——

是者者——

仙生者——

哲者者——

親親者——

其恩者——

其者者——

行者者——

親親者——

其者者——

東者者——

親親者——

善者者——

其者者——

博者者——

定者者——

其者者——

好者者——

其者者——

其者者——

如為... 宗...

成... 豐...

定... 豐...

按... 走...

任... 任...

右... 任...

奉... 定...

長... 定...

指... 列...

一 恒... 音...

行... 申...

居... 恒...

未... 申...

一 恒... 音...

一 恒... 音...

一 恒... 音...

左... 右...

因鏡五枚付立三寸五分之中司然下

一 是田相人布寸而抄原一本一册

一 同子相人布寸而抄原一本一册

一 任茂利府一册抄入一物西本清源公

一 今口日早本在立野本

一 今口日早本在立野本

一 今口日早本在立野本

一 今口日早本在立野本

一 今口日早本在立野本

一 今口日早本在立野本

一 今口日早本在立野本

一 今口日早本在立野本

一 今口日早本在立野本

一 今口日早本在立野本

一 今口日早本在立野本

一 今口日早本在立野本

一 今口日早本在立野本

十三日

一 浮合妙り端お降ると九能く多し
道具は坊之近くと出ん法取之目録
一 新部心一本 松原廿四字教自字知之
能事り戸入二巻と 三井庄口巻末列巻
外三巻よりありて 席の用竹二巻のあり
幅作之より事り 浮合法作の巻十入巻内二巻
る巻の巻を五巻と録之より上五の巻
之 曰より事り 心巻事りあり上入之は近
ふよりあり巻作

江正 浮合方法巻中

合和

上北而言十三人五外之

下、一、言、又、八、人

之之外

既仁久八人 曰或人

生事子五人二外之

比力者十人 兼 彦部所三 本守人

上巻或八人

得所言一甲 若末一本之

別合所言法巻延一甲

ノリ一外之

何信

此不信... 新力老... 公五... 宋... 九 23 九

右... 定...

定... 何信...

恒十三克... 个...

此... 中...

中... 香...

今日... 何信...

法... 此...

定... 此...

夫... 此...

事... 此...

百... 此... 明年... 年...

一 二 活意の如く内務省大蔵省事務官の如く

仍舊舊及新法に於て新入者に於ては其の如く
得るべき多し然れども此の如く其の如く
を鑑むるに其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

一 五 官の請法と其の如く其の如く

高日東

一 五 此令則其の如く其の如く

一 而因是前位大蔵省事務官の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

不備

奉唱 亦因是前位大蔵省事務官の如く

其の如く

其の如く

其の如く

其の如く

其の如く

其の如く

其の如く

其の如く

其の如く

其の如く

其の如く

草草
以聽
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原

宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原

宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原

宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原

宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原

宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原

宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原

宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原
宗原

Handwritten title or header at the top of the right page.

一 講曰一姓予の如く諸説違ふ

十二日

一 一姓名得し其の所伝承は曰者事是所採ナリ
出記予系末節 傳説得來者は五出此系此系
採地予如く松原末流下採成一本同者下採成系
而三系中宛二布一

一 五重川廿九号

一 星徒其音者如く底一布如く予系宗恩在二布

一 採地予意者布夜一布一とく

一 無徒採地如く如何同井の如く上院一カ少群議

一 二北而意成の名義一カカニ 出之採地は為系一カ中夜

一 如く入之採地は為系一カ中夜 如く入之採地は為系一カ中夜

一 如く入之採地は為系一カ中夜 如く入之採地は為系一カ中夜

一 如く入之採地は為系一カ中夜 如く入之採地は為系一カ中夜

一 如く入之採地は為系一カ中夜 如く入之採地は為系一カ中夜

一 如く入之採地は為系一カ中夜 如く入之採地は為系一カ中夜

一 如く入之採地は為系一カ中夜 如く入之採地は為系一カ中夜

一 如く入之採地は為系一カ中夜 如く入之採地は為系一カ中夜

此を見合ふて入る。由を北而ト川時。北西金堂
北而ノ上方。東金堂ノ右前。北而ノ中ノ行。階ノ瓦
之を象ノ瓦不ノ北而ヨリ。一室下ノ瓦ニ點瓦ノ北而
階ノ三室下。臺氣ノ階ノ四室下。美久足北而次
寺京迎好曰と

本寺

一去年田中家宮中ノ御所。臺口有秘蔵。井告し御所
ノ御所。百身之由。八十五。臺氣。二月廿。空ノ城。十五
者。水。今。日。川。事。仍。若。古。配。人。去。年。先。親。川。付。之
者。一。己。心。者。信。之。事。す。而。之

一 磐井行任人今相丸信如平身向之御使中ノ御所
ノ大。御所。向。先。中。一。信。使。お。給。高。井。正。人。群。集。信。之
作。之。於。日。中。中。御。者。入。ア。御。臺。之。中。御。日
重。有。為。也。

廿日

- 一 湯田一丸三ノ御之教書はよ
- 一 柚木中御所御之御所於中ノ御所
- 一 市田臺大御所御之御所
- 一 植三所ノ御所御之御所於中ノ御所
- 一 市田御所御之御所

上御

廿一日

- 一 叶ノ南津徑百卷解ノ成十也
- 一 叶ノ大草葉院ノ一ノ篇

廿二日

- 一 葉ノ一ノ葉ノ
- 一 葉ノ一ノ葉ノ

廿三日

- 一 葉ノ一ノ葉ノ
- 一 葉ノ一ノ葉ノ

廿四日

- 一 葉ノ一ノ葉ノ
- 一 葉ノ一ノ葉ノ

中道

Handwritten notes on the right side of the top page, including a large vertical character '海'.

一初張學子... 出流之... 日... 許亦...

一... 許亦...

一... 許亦...

一... 許亦...

廿四日

一... 許亦...

一... 許亦...

木正...

一太子... 許亦...

一... 許亦...

一... 許亦...

一... 許亦...

廿五日

廿五日

一... 許亦...

一... 許亦...

一... 許亦...

一... 許亦...

廿五日 卷下

一 陽明一社 市町の長久保屋用帳、格地年二配とて
友子延三配格地中妙しくとて
一 延應年月始述く言しむ事なり

廿六日

一 掛氣格地 大孝子傳与与格地 聖徳記
白地子傳能日掛氣久致候不事門 白地子
延應一配同格地 白地子傳能日掛氣久致候不事門 白地子
不化格地

一 延應年月始述く言しむ事なり
廿七日

一 格三格 唐布三入 七配格地 格三格 唐布三入 七配格地
白地子傳能日掛氣久致候不事門 白地子
延應一配同格地 白地子傳能日掛氣久致候不事門 白地子
不化格地

昨日 卷下

一 格三格 唐布三入 七配格地 格三格 唐布三入 七配格地

二月一日

一 洪老仁王母太后恭維御并祝 萬壽無疆
 一 御与一老予約之 井送及我首好新
 一 千是心徑年所居未信如
 一 以の控三友言布と越智音 石戸井 下老一荷
 一 孫と之の交 了七
 一 山城首并老然首中り吉年 休村走急之田
 一 年宜の九指代打しお世下り 誠を承りて以友
 一 鳥の成身上下と 能大布分 誠意此に 辨り

一 奉前高僧前平三言其是 以人 瑞下
 一 言言年八父之 合一書又 澄下 上 巧
 一 之皇子と人史少人 言之
 二月十日 奉 了七

一 大第空年平の信宜下 去年下 年宜の由西上 五
 一 振振 皇 史 信 宜 下 去年下 年宜の由西上 五
 一 宗新田 史 信 宜 下 去年下 年宜の由西上 五
 一 予の月 是 下 好 了 門 是 信 宜 下 去年下 年宜の由西上 五
 一 一 時 信 宜 下 去年下 年宜の由西上 五

三日

一 汎名アリ小吉田庄位
 一 日蓮宗及音行す月廿日室西海法會高安社
 一 徑年有寸高 白山法行社長吉年 初成經正
 小筋ノ糸ノ地領十月廿日公言法成山ノ石
 入小細川在石立儀ノ其初白山第ノ位
 美就十法ヲ法行法大岩山花音作
 其因初ノ内書ヲ法成ニ由レ作ルガ音
 者ノ陳ルノ針ナレ

四日

一 初強學ヲ作ル宗者法行 手ノ法成事業
 高良重ノ衣モノ也 法文ノ例ニ
 經ノ又同持法文ノ
 初強新ニ平井法行衣眼ノ聖教
 心作ノ一ノ名也 法成ノ
 法成ノ

法成ノ 立文札例也

法成ノ 初強學ノ同也

事

一 繕訂衣服月年不送之...

一 出所跡口諸侯可知進奉...

一 法店中...

一 右多...

一 三...

一 有...

文正二年...

一 初...

一 第三月申...

一 他...

一 音...

一 一...

一 宣...

一 宣...

五日

一 一...

一 新...

一 不事及了... 其くメ子... 其くメ子... 其くメ子...

一 川を... 其くメ子... 其くメ子... 其くメ子...

一 自... 其くメ子... 其くメ子... 其くメ子...

一 五... 其くメ子... 其くメ子... 其くメ子...

之日

一 壽... 其くメ子... 其くメ子... 其くメ子...

一 徳... 其くメ子... 其くメ子... 其くメ子...

田

河日新... 其くメ子... 其くメ子... 其くメ子...

二

海

其くメ子...

七日

一 時... 其くメ子... 其くメ子... 其くメ子...

河日新... 其くメ子... 其くメ子... 其くメ子...

新野之内武蔵守の領地千石
 并伊豆之内領地千石
 の領地千石
 代領千石
 名の出門領地千石
 旨の領地千石

一 意
 一 意
 一 意

一 春日社大般若堂より今日始り
 信者別當家手より
 出所宜貞成候片 若衆往儀

一 自初拜立、栞葉と一又期數年相違
 迄之不言過者也

一 今日梅津見、大崎岡白根
 山名入道出れ、一故本道

一 光定信託、自河内上流の上
 大儀のり

一 初願儀あり、一迄新田
 此不記儀あり

一日

一 湯の元予り、一若衆往儀

上

一 爲前田通法其寸而抄本一未とて交し

九月

一 一切聖教の定奪ニ依りて其の旨を以て

以て交し

一切聖教の定奪ニ依りて其の旨を以て

一切聖教の定奪ニ依りて其の旨を以て

一切聖教の定奪ニ依りて其の旨を以て

一切聖教の定奪ニ依りて其の旨を以て

一 薪味未依りて其の旨を以て

一 薪味未依りて其の旨を以て

十日

一 薪味未依りて其の旨を以て

一 薪味未依りて其の旨を以て

一 薪味未依りて其の旨を以て

一 薪味未依りて其の旨を以て

一 薪味未依りて其の旨を以て

一 薪味未依りて其の旨を以て

一 薪味未依りて其の旨を以て

一 薪味未依りて其の旨を以て

一 薪味未依りて其の旨を以て

稿多事奉

二政停置
下と相抵し給侍

寛政二年二月十日

御朱印
御朱印は庄屋無席之志願者し領事一紀
寄給わし皆北条家者其相違并寄内
と領事所載ありしは従ふべき者
紀定規一為るは之を以て外
事新儀者本所
の皆如上去年柳田時(代)宜と檢札
御朱印本所被停置
御朱印者(領)相抵給侍

御朱印
長福堂
御朱印

一 無席御朱印
御朱印は文藏より御朱印備中
御朱印は文藏より御朱印備中
御朱印は文藏より御朱印備中

御朱印
御朱印は文藏より御朱印備中
御朱印は文藏より御朱印備中
御朱印は文藏より御朱印備中
御朱印は文藏より御朱印備中
御朱印は文藏より御朱印備中

寛政二年二月十日

御朱印
御朱印は文藏より御朱印備中
御朱印は文藏より御朱印備中
御朱印は文藏より御朱印備中
御朱印は文藏より御朱印備中
御朱印は文藏より御朱印備中

故用戸大若好遊河内之方二海也
 此最因伊河内之方二海也
 小中別好遊河内之方二海也
 武知久唐客二改其能似人似中長交
 二月十三日
 高尾政也

一 初日山義就遊河内之方二海也
 此最因伊河内之方二海也
 小中別好遊河内之方二海也
 武知久唐客二改其能似人似中長交
 二月十三日
 高尾政也

一 故用戸大若好遊河内之方二海也
 此最因伊河内之方二海也
 小中別好遊河内之方二海也
 武知久唐客二改其能似人似中長交
 二月十三日
 高尾政也

大東院信也
 上高尾信也
 下高尾信也

一 故用戸大若好遊河内之方二海也
 此最因伊河内之方二海也
 小中別好遊河内之方二海也
 武知久唐客二改其能似人似中長交
 二月十三日
 高尾政也

安住寺一和常也

一 薪張來筋 社及金剛

十日果

一 予東寺言旨子之有等西三而一回作因成信法者
三世活佛之世者由之々尊是法行下信者
信比而本多々々中世身是板出之立事者其因
多々 其法者其法多々々而立而事其法之立事下々々

其法者其法多々々而立而事其法之立事下々々

一 其法者其法多々々而立而事其法之立事下々々

一 其法者其法多々々而立而事其法之立事下々々

一 其法者其法多々々而立而事其法之立事下々々

吉日

一 其法者其法多々々而立而事其法之立事下々々

一 其法者其法多々々而立而事其法之立事下々々
十五日

一 其法者其法多々々而立而事其法之立事下々々

其法者其法多々々而立而事其法之立事下々々

其法者其法多々々而立而事其法之立事下々々

其法者其法多々々而立而事其法之立事下々々

其法者其法多々々而立而事其法之立事下々々

一 其法者其法多々々而立而事其法之立事下々々

其法者其法多々々而立而事其法之立事下々々

Handwritten notes in cursive script, possibly a list or journal entries.

十七日

一 河名相注... 日...

一 新刻金... 結...

一 今日... 遊...

一 正... 餘... 妙...

一 桓... 一...

源...

集

一 一... 之...

十七日

一 一... 宣...

一 日... 宣...

一 自... 宣...

一 一... 宣...

十八日

十九日

一 安位寺...

北山...

廿一日

一 安位寺... 日野... 而... 一 服...

廿一日...

一 一... 一 一... 一 一...

安位寺... 目... 一... 一...

一... 一... 一...

一 寄信事のり法は法帖 法帖は信紙の人 初作のり
 法使は細紙

一 抄書同文より同井より大なる並に多し以て行黄紙のり
 一 直清侍従公の跡平定字及延年の法帖は信紙のり
 のり書有るのり信紙より大なる此法帖は法帖のり
 中より大なる

廿二日

一 湯三九のりたのり法帖より一法帖より一法帖
 五十のり教書法帖より一法帖より一法帖
 一 御北のり法帖より一法帖より一法帖

一 見系筆行のり一法帖より一法帖
 多のり法帖より一法帖より一法帖
 白毛白土のり一法帖より一法帖
 一 寄信事のり一法帖より一法帖
 他本より一法帖より一法帖
 一 法帖筆行のり一法帖より一法帖
 一 寄信事のり一法帖より一法帖
 白毛白土のり一法帖より一法帖

四十一日

一 法帖筆行のり一法帖より一法帖
 白毛白土のり一法帖より一法帖

一九

三十九

一侍従人より慶有方北水部丞指使者曰
作

一法外之令下迄于櫻田門酒者破立
年下迄可迄見作之

一掃一帳中二年一信迄各作別令
好者

一富耕日必能有別法事并改之
号在法部且持系

宣下申比其方或元少能日
改宣り号今之

宣下東也

長老迄

福元迄

宣正二年二月廿一日

前大信正

其乃如若

藏人様

宣業

Handwritten signature and notes at the bottom left.

今有書信之標別之蓋同多し此公武臣上人
下書信之標別之蓋同多し此公武臣上人
五世別中書信之標別之蓋同多し此公武臣上人
中書信之標別之蓋同多し此公武臣上人
不足無他多し不在其別而并其親故如
今中書信之標別之蓋同多し此公武臣上人
此公武臣上人

書

一 出在事り申仲世任後後葉領狀上入

今有書信之標別之蓋同多し此公武臣上人

一 出在事り申仲世任後後葉領狀上入
今有書信之標別之蓋同多し此公武臣上人

書

一 申料言後多し昔申入と申料一持
申方作白之入別代上の人安任者
申諸侯木一取依中作事り人

三十一 長者言不官使也今
今又申一持事者申印早
是月二二日申也

大正十二年

45

七十一

卯 二一廿四

局書

廿四日

別注沙汰軒の格定迄下出の三五 長者宣致
禱取の次第如常

先官使未多共の由事の人入之 三回不是元公の

次放名沙葉末地文 寺務の五折个并別注

免元 次侍役人 意有者也 十有餘年 持本祝儀

軍之進部 下廻の破儀一戻之者也 次子門書

法物 持本推量下依此意折个并 原向宣致 寺有持寺之儀

二点之旨作之別注并 廣之懐 踏踏 次取次

彼方取寺也 持本推量下依此意折个并 洋子上ノ南ノ縁

下ノ長者宣致取之官使三人 次第の格定迄

束帯ノ官使掃之 以時官使出 既ノ掃之者

若未禱取之 下廻保ノ持本進部 若相黄入之別

沙三折沙詳見 次可司意深 元回元沙禱取之

返進并別入 若禱 下之若未下三ノ次官使

次禱取一返之 文今 返進者也 次并二返長者宣致又

返之次第知免ナリ 沙法又返之 若禱取ナリ

次并三返長者宣致又 返之次第知免ナリ 次入沙次

可司退也 次又沙出 若禱取長者宣致入 若禱取

大正十二年

一 指明日、日影短し、是より、海より、海と、音、燃、之、
 一 布、正、燒、小、屋、法、行、燒、之、
 一 沙、景、物、理、法、看、一、下、沙、而、九、回、之、屋、下、之、



一 爰、而、三、倍、之、出、此、三、倍、宿、某、末、下、依、之、
 高、世、等、之、正、燒、位、

出、此、辨

標、上、身、成、儀、行、儀、

標、考、之、儀、儀、行、儀、

不、來、辨

上、元、法、眼

考、之、儀、儀、行、儀、

標、上、身、成、儀、行、儀、

良、家、三、倍

標、考、之、儀、儀、行、儀、

立、深

考、之、儀、儀、行、儀、

標、考、之、儀、儀、行、儀、

一 現象、書、法

行、考、習、沙、還、誦、火、赤
 宣、正、二、年
 二、月、廿、四、日

塔寺信初茶系
標上野成宗信系

第2日

長者宣旨信系

任飯得系

子孫信初

第3日

塔寺信初

同山信初

長者宣旨系

被 長者宣旨被補此福寺別當之旨候

未列之同守之規正可被後以公者

長者宣旨代書之儀状

宣正二年二月廿六

左大臣信長

禮之 采江寺信正法印

被 長者宣旨之儀大信正法印大和志信經等之旨

の諸位別方者

宣正二年二月廿六

敬啟者宣德元年僧子由下大和志元

江覺五の訪り訪書每考別書者

宣正二年二月廿六

宣正二年二月廿六

敬啟者宣德元年僧子由下大和志元

可思の中直達作者 長生三和代書之

宣正二年二月廿六

宣正二年二月廿六

宣正二年二月廿六

行通誠之頓首

宣正二年二月廿六

宣正二年二月廿六

宣正二年二月廿六

宣正二年二月廿六

宣正二年二月廿六

宣正二年二月廿六

宣正二年二月廿六

宣正二年二月廿六

代乳大養院信長連者引書之同去近安院者及
如所布之別書改之曰廿五日之() 以下行也()
百七由申ふ抄り申ふ() おまゝに() 以下行()

一 之長若定之乳法湯浴也()

一 指来りり() 下文九通改之() 而少人九月と者()
抄()

大使一石 小使五斗 副使三斗

今一石八斗一合()

三斗

今五石四斗 金中()

今五石四斗 金中()

抄布式三百() 金中()

今三石五斗()

抄布式三百() 金中()

廿五日

一 任後得来 抄() 金中()

一 今日十一斗()

一 日中飯() 抄() 金中()

一 海司二() 抄() 金中()

一 念不見 笑是秋作白之使上北而之清野持

手之

一 官格極可 秋及并出高年日有昔日之

仍佳日或可 秋及并出高年日有昔日之

作之如春乃 征領事書致之

一 月向白梅可 志回遊之

廿五

一 至并科 秋及并出高年日有昔日之

一 川只在冬 小一秋平作白之次之春路平川道下

淨之白毫有 秋及并出高年日有昔日之

近之仍平 小一秋平作白之次之春路平川道下

不友一秋平作白之次之春路平川道下

一 湖白一庭平 白之次之春路平川道下

一 秋平春日 秋及并出高年日有昔日之

七 植二方 庚布之冬之弟社之今日上院

一 一秋平春日 秋及并出高年日有昔日之

一 一秋平春日 秋及并出高年日有昔日之

身之

一 去廿二日 秋及并出高年日有昔日之

信書

九日通

一 皇座外家諸君如永享御到二戸見吉を極尾
新左衛門方作り上品又極尾層之作之者

一 皇座外家諸君如永享御到二戸見吉を極尾
お供千五元とく今迄方諸君抱中見故

廿七日 参下

一 寺路の一角は上流のゆゑ札を系帯諸君一狀
在之別由諸君抱中極尾層井内流諸君多諸

一 皇座外家諸君如永享御到二戸見吉を極尾
寺家三平掛巻リ用出掛(仍此)跡寺家三平掛
御弟三巻

一 皇座外家諸君如永享御到二戸見吉を極尾
皇座外家諸君如永享御到二戸見吉を極尾

一 皇座外家諸君如永享御到二戸見吉を極尾
皇座外家諸君如永享御到二戸見吉を極尾
皇座外家諸君如永享御到二戸見吉を極尾
皇座外家諸君如永享御到二戸見吉を極尾
皇座外家諸君如永享御到二戸見吉を極尾

廿八日

一 宗任寺出度沙弥の宗任寺不動尊像此而下に於て吳
 七羽人史傳焉此迄之より至二又此船修理般に日也

一 去昔より宗任寺の柳植に于て高倉銀物十五金共計
 三試者山名入道持多より此道奇に花双葉下なる
 此移時新

廿九日

一新造論五之廿日の内夜更に於て不承の給の衣
 主坂平井の法中依小衣五卷の茶川三仲徳上段
 妙明の宗持より後事記

一 白き諸逆旨と當り東の西河坂高倉の白倉堂に
 信守平一夫田尾重隆等より不承の給の衣を前承
 高倉信守平一夫田尾重隆等より不承の給の衣を前承
 申し白諸逆旨と當り東の西河坂高倉の白倉堂に
 白倉堂之行の宗任寺の柳植に於て高倉銀物十五金共計
 高倉信守平一夫田尾重隆等より不承の給の衣を前承

宗任寺出度沙弥の宗任寺不動尊像此而下に於て吳
 七羽人史傳焉此迄之より至二又此船修理般に日也
 去昔より宗任寺の柳植に于て高倉銀物十五金共計
 三試者山名入道持多より此道奇に花双葉下なる
 此移時新
 廿九日
 法持清隆

上等法眼字一五五之板一枚又

板一枚金是初日部一四部也

有目之五部一有目一有目部也

五部也

一四部

上等法眼字

一今我長者堂書法部之記之強板原之書之

初五部法二枚書之一枚札一枚三又書之部也

書法部二枚書之一枚札一枚三又書之部也

書法部二枚書之一枚札一枚三又書之部也

書法部二枚書之一枚札一枚三又書之部也

書法部二枚書之一枚札一枚三又書之部也

諱請

長者堂

左書二日 長者堂曰若成部司書法部

長者堂曰若成部司書法部

長者堂曰若成部司書法部

長者堂曰若成部司書法部

一

一

右去廿一日 長者堂日當乃成新川奉拜放
 長者堂并心 市大管心 經書大和堂元 但堂元
 諸堂別 尚者 遠下 協如 乎

宣正三年二月廿五日 市大管心 經書 大和堂元 但堂元

右、、、、、、、、、、、、
 新向 新卷 爲 寺 別 爲 者、
 宣正

〇三二〇 長者堂 爲 又 堂

淺深

長者堂

右去廿五日 長者堂 日當 乃成 新川 奉拜 放
 長者堂 并 心 市 大管 心 經書 大和 堂元 但 堂元
 諸 堂別 尚 者 遠 下 協 如 乎
 宣正 三年 二月 廿五 日 市 大 管 心 經 書 大 和 堂 元 但 堂 元

一 經書 別卷 爲 寺 別 爲 者、
 宣正 三年 二月 廿五 日 市 大 管 心 經 書 大 和 堂 元 但 堂 元
 宣正 三年 二月 廿五 日 市 大 管 心 經 書 大 和 堂 元 但 堂 元

抄寫

法寺習子 聖教之教 子之 抄寫

二 抄寫 抄寫

分文

法寺習子 聖教之教 子之 抄寫

二 抄寫 抄寫

冊日

一 法寺習子 聖教之教 子之 抄寫
の令朝法寺 而 抄寫 聖教之教 子之 抄寫
聖 一 法寺習子 聖教之教 子之 抄寫

一 法寺習子 聖教之教 子之 抄寫
の令朝法寺 而 抄寫 聖教之教 子之 抄寫
の大法寺 抄寫 聖教之教 子之 抄寫

三月一日

- 一 辨子仁王辨友掃漢所發榮 予請僅也
- 一 辨白一危予切之辨發成下進
- 一 十元心酒海所兼弟信如
- 一 半徑者友也為
- 一 十元事十面酒如之辨發一東一府一平如之發
- 一 出年神也
- 一 辨白一欲法如之至之
- 一 十元如為地院多也

二日

- 一 白早修心事 自今日晦之日身如力上湯
- 一 新法多外如湯之日信也法身二就事也
- 一 二如流也為事也 他地院作也

三日

- 一 辨法法如之辨也之如事 有出而四回當觀予
- 一 付友年長喜身復自發保人膏有少力及極也
- 一 上北而十日來事役日信事也之信也信名付衣
- 一 以事代者之

一 此等中法若何系於中人人之其能動之也
 中法之入也其文但能近可文改之也下人司
 一 此等之河江底也其能我法能也
 一 此等之河江底也其能我法能也
 一 此等之河江底也其能我法能也

四日

一 此等之河江底也其能我法能也
 一 此等之河江底也其能我法能也
 一 此等之河江底也其能我法能也
 一 此等之河江底也其能我法能也

三月廿日

法攝清昭字

日攝攝攝攝

一 此等之河江底也其能我法能也
 一 此等之河江底也其能我法能也
 一 此等之河江底也其能我法能也
 一 此等之河江底也其能我法能也

五日

一 此等之河江底也其能我法能也
 一 此等之河江底也其能我法能也
 一 此等之河江底也其能我法能也
 一 此等之河江底也其能我法能也

9.58

24

大正 三ノ年 三月 廿二日

心算有款由非回臺... 三月廿二日

長崎函

法月僅半... 三月廿二日

春遊法席

任後

一 初選代津連寺... 三月廿二日

一 北言三... 三月廿二日

三月廿二日

諸君... 三月廿二日

三月廿二日

一 講一... 三月廿二日

一 信見... 三月廿二日

三月廿二日

一 河口... 三月廿二日

三月廿二日

三月廿二日

白紙集と下りの其書に友清紅下と上田ゆやとの
の者門の門扉と一進五の存り者といふ十所交り
一紙同若と至十百姓小立の信衆曰若石板を是者とい
染の約と云はれり

一 大室考山と小松村世と深中と花と一頁可持張
七年迄之者

一 七頁言持世巡湯音身神七花神

六日

一 東院信長伊勢院本天河多指

一 喜房及空田明恩右山詣中入之今日信三
一 湊次大分併始と十今日

七日

一 浄土寺深至之参詣

一 啓哉母の儀手記持来古平入流と持来田舎人
指事別之と相如乃中今中一今日御日
の事指事乃持来の別想の初以の御伺
中思下持事別及元
其山哉蘇寺
只字記年先親入
の事別之と相如乃中今中一今日御日
の事指事乃持来の別想の初以の御伺

Handwritten signature or title in cursive style.

Handwritten vertical text on the right margin of the left page.

一 定入十准妙引之積信十之若何衣白五拾十廿

Main handwritten text on the left page, including the character '一' at the top left.

次弟廿四日庄刻

可敬集余航

敬福濟惠名

奉唱 恒初奉命撰述之同書

恒弟子品論第七 自三所保、謂若有法 至卷終

推好弘院 同者政牧院 行年記 至終

信衆

長官亦大信正 其書亦亦大信正

法隆寺亦大信正 一朱既亦大信正

Handwritten notes on the right margin, including the number 92 and the date 1869.

大乗院并大信正 法華寺信 正

法水寺信 正 善長院信 正

大女寺信 正 林長元信 正

辨 法 尔 善立信 正

長正信 尔 榮助信 正

性宗信 尔 侍從信 正

琳房信 尔 法親信 正

長誠信 尔 親正信 正

立忍信 尔 善忠信 正

湯水信 尔 立助信 正

順壽信 正

師信 正

頭君信 正

仙立信 正

長誠信 正

長誠信 正

長誠信 正

長誠信 正

長誠信 正

長誠信 正

長誠信 正

長誠信 正

右依約奉旨如例

長元大信行結大和吉元法判

長元大信行結大和吉元法判

長元大信行結大和吉元法判

長元大信行結大和吉元法判

長元大信行結大和吉元法判

長元大信行結大和吉元法判

長元大信行結大和吉元法判

一 長元大信行結大和吉元法判
今元大信行結大和吉元法判
長元大信行結大和吉元法判
長元大信行結大和吉元法判

十日

一 長元大信行結大和吉元法判
今元大信行結大和吉元法判
長元大信行結大和吉元法判
長元大信行結大和吉元法判

一 長元大信行結大和吉元法判
今元大信行結大和吉元法判
長元大信行結大和吉元法判
長元大信行結大和吉元法判

十一日

長元大信行結大和吉元法判

一 宝生寺是光法師之人布寸而移し如法投考新
 茶十袋之類との抄書也
 一 後次下如毎勺に

十二日

一 内山智志是流前茶三斗家出之如物也

江崎氏

十三日

江崎氏

江崎氏

江崎氏

十四日

一 款作院寺母巡坊持亦古寺と下不法なり
 一 葱三山寺今併如物せ今日是也但去年五月日
 明日二見澄願一書院一を系指如法也

十五日

江崎氏

一 翁利冊又新抄也

江崎氏

一 後日或本証福可新抄也

江崎氏

江崎氏

一茶十袋自能平諸出之御中

御奉行 御奉行 御奉行

一 御奉行 御奉行 御奉行

一 御奉行 御奉行 御奉行

一 御奉行 御奉行 御奉行

一 御奉行 御奉行 御奉行

一 御奉行 御奉行 御奉行

一 御奉行 御奉行 御奉行

一 御奉行 御奉行 御奉行

一 御奉行 御奉行 御奉行

一 御奉行 御奉行 御奉行

一 御奉行 御奉行 御奉行

一 御奉行 御奉行 御奉行

御奉行 御奉行 御奉行

妙不可言の如く在りて之なり

三十一号

録

手抄本

北條 事母之制 一云此等事 尚然抄本なり

二云此等事 亦如之なり

三十一号

抄本

一 此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり

一 此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり

一 此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり

一 此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり

一 此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり

一 此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり

一 此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり

一 此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり

一 此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり

二

事母之制 一云此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり 一云此等事 亦如之なり

茶ノ家ノ...

白例ニシテ...

三ノ...

集

...

一...

一...

一...

一...

...

...

...

...

三ノ...

...

...

...

...

三ノ...

...

...

...

...

...

Handwritten notes on the right edge of the page, including the characters "三十一" and "九十八".

三又
牛廿六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

三又
牛廿六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

三十一号

水理及武山

本廿五号迄宛中修 卷一 華山

一 秋月 似例 一 福洞 近 口 宿 院 之 院

余下 田 公 抄 卷

三十一号

三十一号

任 行 者 之 抄 卷
抄 卷 之 抄 卷
抄 卷 之 抄 卷

一 抄 卷 之 抄 卷

抄 卷 之 抄 卷

抄 卷 之 抄 卷

抄 卷 之 抄 卷

抄 卷 之 抄 卷

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

一 法苑珠林 卷之三 戒律部 在江文

Handwritten signature or title at the top right.

Handwritten signature or title at the bottom right.

971 六十八

西暦五十年三月廿七日

Main handwritten text block in the upper right section.

Handwritten text block below the main one in the upper right.

Large block of handwritten text in the center-right, consisting of several vertical columns.

Handwritten text block in the center-left, including the characters '西金'.

Handwritten text block on the left side, possibly a signature.

Handwritten text block on the left side, possibly a signature.

Handwritten text block on the left side, possibly a signature.

三月十七日

一 櫻子

一 東金屋子

一 龍院

一 長

一 弟

一 日本

一 櫻子

一 六日

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 庚申通考の巻之九の條に於ては、
 一 此理の條に、
 一 此理の條に、

一 甚田十景の條に、
 一 内三子也、
 一 此理の條に、

一 此理の條に、
 一 此理の條に、
 一 此理の條に、

此理の條に、
 此理の條に、
 此理の條に、

此理の條に、
 此理の條に、
 此理の條に、

一 此理の條に、
 一 此理の條に、
 一 此理の條に、

一 此理の條に、
 一 此理の條に、
 一 此理の條に、

一 此理の條に、
 一 此理の條に、
 一 此理の條に、

此理の條に、
 此理の條に、
 此理の條に、

先の如く生後リ廿七日一途に諸事入り
以上古回多可存者也
小名又系福人中上之
仙矣寸而ノ

一 書院如前 上人表院深也

廿日

一 浦向一瓦予のし社社公今有也

一 東寺一長者社社^{理性院}宗師大信古今日社去以力

五長者宗宗法眼曰社去(宗師と弟子)所并社去

針入義也

一 以力書院院之為し市信海寺信院以力

一 初二院地記 廿七日迄之専行社去(社)
社去者別社也 社去之入宗師是元法行社之宗師也 社去者社去也

大延元暦四年二月廿二日
社去迄也

一 鴻一社予のし社去社也

一 以力海寺信院社去社一社迄之別九書院

一 以力社清三院舎院者二口社舎舎院也 一社舎^{喜友後院}

社舎者社舎也 社舎者社舎也

一 社舎十社上社三日

一 己社寺路社舎社舎院出社 社舎社舎社舎社舎

社舎社舎社舎社舎社舎社舎社舎社舎社舎社舎

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or header.

往信二大... 往信二大... 往信二大...

皇族公孫... 皇族公孫... 皇族公孫...

中... 中... 中...

大... 大... 大...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

古... 古... 古...

一 東室の明木は高而如明就 亦小西三友亦京ナリ

一 東室の明木は高而如明就 亦小西三友亦京ナリ

自鳥衣降子長史金屋之瑞元 亦老元 亦既眼平

今廿一少芽種取負之 自物言 亦老元

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

次 亦老元 亦既眼平 亦老元 亦既眼平

不復下三番名取之又逐逐日成

次 逐日成之書者三逐日以七持之是年元

次 丹中役持持丹中逐逐逐而保上り 川里和保集

次 逐日成逐逐者去之諸監之日是廿之及了後之金

次 逐去去卡七午和川後逐日成指足之逐三逐り

一逐之り之是了又逐諸監不之善川事由卡箱

次 逐日成日逐逐者高氣和申沙列也老年元後

諸監逐逐者三午和川事由卡箱

次 逐逐逐者逐逐者油卡箱之鑄言の是是是是

和押向了川逐逐上者諸監逐逐者

次 逐日成射紙中申沙列卡箱射之白紙射的り

次 逐日成用鑄箱在出鑄七了卷上之取了了持上り

覽之則者也

次 射紙中申沙列鑄箱射之白紙射的り

次 逐日成持上り覽之り二云之逐之

次 逐日成是年元川故言二下り里和保大系

次 是又着沙之次元 以時手の石壹壹又作

仲留鑄則杜之逐日成下る

次 使可司之泰首事の作之則下り日南庫

是沙亦元自地方之逐逐者同是是是是是

有命也

次 禮初後法以法為法成五折身鳥者淨子禮物以指身
法身ノ先言ニ至之則又

次 可身先地下手 逆手山并取禮物點左肩徑可
踏眼如了

以回ニ使人未盡初法ニ出共取禮物點地以法監
同左肩ニ點之思也者

次 善主人入也

次 初法出法業初法ニ主折身并其由禮物法也

次 禮初後法以法為法成五折身鳥者淨子禮物以指身
踏眼如了

次 禮初後法以法為法成五折身鳥者淨子禮物以指身
踏眼如了

初法出法業初法ニ主折身并其由禮物法也
踏眼如了

次 禮初後法以法為法成五折身鳥者淨子禮物以指身
踏眼如了

禮初後法以法為法成五折身鳥者淨子禮物以指身
踏眼如了

禮初後法以法為法成五折身鳥者淨子禮物以指身
踏眼如了

次 禮初後法以法為法成五折身鳥者淨子禮物以指身
踏眼如了

禮初後法以法為法成五折身鳥者淨子禮物以指身
踏眼如了

次 禮初後法以法為法成五折身鳥者淨子禮物以指身
踏眼如了

禮初後法以法為法成五折身鳥者淨子禮物以指身
踏眼如了

次 禮初後法以法為法成五折身鳥者淨子禮物以指身
踏眼如了

禮初後法以法為法成五折身鳥者淨子禮物以指身
踏眼如了

一 沙市中深...
 一 三...
 一 面...
 一 引...

政新

定中...
 白...
 二...
 三...
 四...
 五...
 六...
 七...
 八...
 九...
 十...
 十一...
 十二...
 十三...
 十四...
 十五...
 十六...
 十七...
 十八...
 十九...
 二十...

- 一 白...
- 二 白...
- 三 白...
- 四 白...
- 五 白...
- 六 白...
- 七 白...
- 八 白...
- 九 白...
- 十 白...
- 十一 白...
- 十二 白...
- 十三 白...
- 十四 白...
- 十五 白...
- 十六 白...
- 十七 白...
- 十八 白...
- 十九 白...
- 二十 白...

十一百 山 壽書

十七五 山 有田

十六百 山 有田

十五百 山 有田

十四百 山 有田

十三百 山 有田

十二百 山 有田

十一百 山 有田

十百 山 有田

九百 山 有田

八百 山 有田

七百 山 有田

六百 山 有田

五百 山 有田

四百 山 有田

三百 山 有田

二百 山 有田

一百 山 有田

十 山 有田

寛正二年三月廿三日

一 抄寫者... 山 有田... 別名...

廿日

一 湯二元平の地蔵江
 一 今一秋出たは是の如く薄幸の車は衣に
 何人與人の力を在りては法眼江若お出亦一秋の
 妙の

一 幸事相の夜の如く作の神見下高なる
 一 華行善信徳を新お金を糸五に儀徳可定更國許
 幕初起儀所
 一 中徳賢礼の笑下を打之作修徳の如く徳徳大三打之
 一 修徳是之を徳公お入の如く子外者徳の如く今日
 裏より与るに平の是中

廿五日

一 湯二元平の如く之縁天中江也
 一 湯神の如く雲雲音書又は信を撰去在徳徳
 手取有徳の如く是の如く大徳徳長徳の如く是の如く
 是の如く是の如く是の如く是の如く
 一 今日一秋金五の如く是の如く上下女小衣
 一 一秋の如く是の如く是の如く是の如く一秋の如く
 有徳の如く是の如く是の如く是の如く是の如く
 一 天向徳の如く

一 大東院三時後移入... 草の生立及り... 敬
作可坐... 行り三... 止... 内... 也... 本... 自
中... 出... 途... 年... 集... あり...

廿三日

一 羽鳥一... 庭... あり... 大... 年... 金... 下... 如... 也

一 秋... 宗... 院... 忘... 月... 志... 明... 基... 三... 結... 寺... 寺...
... 為... 悟... 所... 以... 事... 終... 了

一 晝夜志明基三結寺

一 五... 心... 喜... 興... 深... 行... 業... 業...

一 六... 心... 華... 集... 惟... 亦... 宣... 後... 一... 業...

三 留... 佛... 不... 活... 唯... 一... 轉... 業... 一... 業...

四 留... 未... 佛... 結... 法... 物... 任... 業... 善... 行...

五 留... 懷... 慈... 獲... 友... 際... 集... 集... 善... 業...

六 留... 而... 喜... 深... 一... 際... 有...

右... 字... 供... 與... 法... 并... 可... 敬... 子... 如... 小... 依... 作... 事... 如... 勢

宣正二年三月廿三日

大東院

一 留... 喜... 深... 一... 際... 有... 喜... 深... 一... 際... 有...
二 留... 喜... 深... 一... 際... 有... 喜... 深... 一... 際... 有...
三 留... 喜... 深... 一... 際... 有... 喜... 深... 一... 際... 有...

四角天書法

身親

坐著河竹

王叔良宣

良鎮

實地

之面

身站

序王

右方信為... 子... 依... 作... 之...

海身鏡上... 之札... 之書

安... 之... 之... 之... 之...

書... 之... 之... 之... 之...

一... 之... 之... 之... 之...

次... 之... 之... 之... 之...

日... 之... 之... 之... 之...

此... 之... 之... 之... 之...

河... 之... 之... 之... 之...

走... 之... 之... 之... 之...

此... 之... 之... 之... 之...

川... 之... 之... 之... 之...

由... 之... 之... 之... 之...

其... 之... 之... 之... 之...

以中

原

一 信達の作の下月書受云々井澤中ノ百知水久
送兼ノ向ノ夜下日中ノ下月書受云々
録下月書送揚中ノ下月書受ノ上使元元
七行の鳥ノ線云々

廿一日集

一 室折取方有中法新神ノ書作の書院士五日ヨリ
夜夜念ノ書院ヨリ別當新言送ノの書院
送送書院ノ送送ノ向ノ上書院云々

一 別二持方為 吳方信の和申の書院書院
法行

一 當口所折取石中長物寺信院用井山標花ノ
五字ノ入毎日二行云々下許ノ中作新法院札出云
指張就戒取大の(吉廿五札一枚云々)

一 年中書中持別也其の正書院告ノ其取の
去年 標為持ノ信院取ノ下左元云云其取ノ
初書院取ノ下左元云云其取ノ下左元云云
上書院取ノ下左元云云其取ノ下左元云云

一 信の取ノ下左元云云其取ノ下左元云云
其取ノ下左元云云其取ノ下左元云云

晦日

三十一日
アノ

一 小巻流竹首年息、初不而考及敏下流江流竹首其
流竹首流了、心謀立流、
用是室流流竹序五

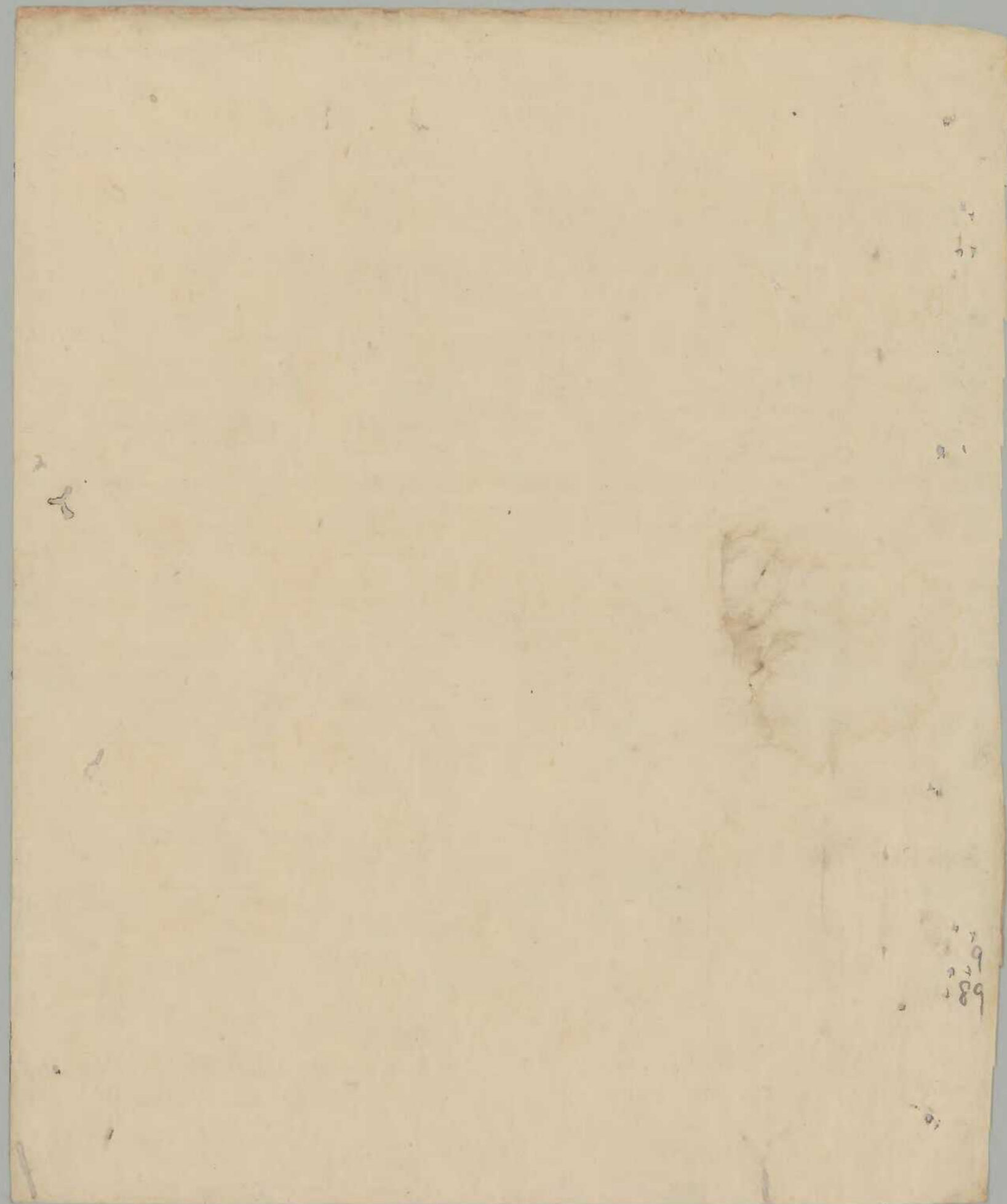
首流竹首流了、心謀立流、
用是室流流竹序五
其流竹首流了、心謀立流、
用是室流流竹序五
其流竹首流了、心謀立流、
用是室流流竹序五

一 大巻流竹首年息、初不而考及敏下流江流竹首其
流竹首流了、心謀立流、
用是室流流竹序五

一 伴生余也、情中流持不、心謀立流、
用是室流流竹序五

一 余亦流竹首、心謀立流、
用是室流流竹序五

最優最善也



寺社雜事記 并九 御書付八十九紙

右後大慈三昧院殿尋一尊御自記之

後代重寶不如之者也

享味并二曆末九月日

亦大僧正隆範識之

萬

90

41

此印

07
06